

題材【CASE 1…怪獣現る】

首脳会談のために、海外に赴いていた大統領のもとに、
随行していた秘書官が、青い顔をして近づいてきた。

「大統領、たいへんです。」

ホワイトハウスで怪獣が暴れているそうです。

怪我人も、たくさんでている様子です」

「何ということだ。早く手を打ってください！」

「大統領、お言葉ですが、この事態を収束できるのは、

大統領ご自身しかありません。」

すぐに、大統領のお言葉を伝えてください」

大統領は、大きく深呼吸をして、

落ち着いた声で話しはじめた。

【応募作品】

そして、大統領は優しい口調で話を続け、

怪獣に、元々棲んでいた海底に帰るように説得した。

ホワイトハウスは壊れてしまったが、

怪獣は大人しく海底へと帰っていった。

テレビ中継で、その様子を見ていた国民から

大きな歓声が上がった。

大統領が小さな声でつぶやいた。

「やれやれ、これで国民の非難を受けずに

ホワイトハウスを建て替えられる。」

怪我人には申し訳ないが、怪獣様々といったところだな」

大統領夫妻には、子どもがたくさんいた。

最近、また子どもが生まれ、

現在のホワイトハウスでは手狭になってきた。

新しく建て替えたかったが、税金の無駄遣いだと国民が騒ぎ、

支持率に響く恐れがある。

しかし、怪獣に壊されたならば、

堂々とホワイトハウスを建て替えられる。

怪獣が人為的に作られたものだということは、

秘書官すら知らない極秘情報であった。